

出世の街 浜松



SPIN OFF I

徳川家康と浜松

家康が17年間を過ごした浜松城は「出世城」とも呼ばれる。浜松には数々の激戦の記憶とその戒めともとれる苦渋の面影が染み込んでいるのだ。

忍従の日々を 過ごした幼少期

徳川家康は天文11年(1542)、岡崎城主・松平広忠の嫡男として生まれ、幼少期は尾張の織田氏や従属していた今川氏の人質として過ごす。永祿3年(1560)、桶狭間の戦いで今川義元が討たれると、家康は混乱に乗じて岡崎城へ入城。今川氏と決別し、織田信長と清洲同盟を組むと、その後領土を三河、

はまつじょう 浜松城

徳川家康が元亀元年(1570)に築城し、29歳~45歳までの17年間を過ごした浜松城。天正3年(1575)、徳川家康に仕えた直政は、家康の小姓として仕え、武功を重ねていった。家康が出世の礎を築き、歴代城主の多くが後に幕府の重要ポストに登用されたことから、別名「出世城」とも呼ばれている。現在の天守閣は昭和33年(1958)に、天守門は平成26年(2014)に再建されたもの。

浜松市中区元城町100-2 ☎053-453-3872
開館時間: 8:30~16:30
料金: 大人(高校生以上)200円 ※中学生以下は無料
交/JR浜松駅より遠鉄バス ①③乗り場から約5分。
「市役所前停」下車徒歩約6分



ひくまじょう 引間城(浜松元城町東照宮)

元亀元年(1570)に拠点を岡崎から浜松へと移した家康は、引間城を拡大し城名を浜松城と改めた。現在、引間城の跡地には浜松元城町東照宮が建っており、出世の聖地と呼ばれ多くの参拝者が訪れている。

浜松市中区元城町111-2
交/JR浜松駅より遠鉄バス③④乗り場から約5分、
「浜松公園入口」下車

Check 二公像



幼少頃の豊臣秀吉も引間城を訪れたという記録が残る。家康と秀吉にゆかりのある場所として、2人のブロンズ像「二公像」は絶好の撮影ポイント。

居城を浜松に移す

元亀元年(1570)にはそれまで居城としていた岡崎城を長男信康に譲り、自らは浜松へ移って引間城を拡大し「浜松城」と改めた。元亀3年(1572)、武田軍との間に三方ヶ原の戦いが起こり、約2000人も死傷者を出す中、家康は浜松城に逃げ帰り、生涯最大の惨敗を喫する。その後も武田軍の攻勢は続くが、天正3年(1575)、長篠の戦いで織田・徳川連合軍が

勝利すると、武田氏は急激に力を弱めていった。天正10年(1582)、武田氏が滅亡すると、家康は甲斐と信濃に勢力を広げ、天正12年(1584)には羽柴秀吉と小牧・長久手の戦いで戦っている。

天正14年(1586)、家康は29歳から45歳までの17年間を過ごした浜松城から駿河の駿府城へと本城を移した。浜松は幾多の苦難を乗り越え、天下統一への足がかりとした土地なのだ。

SPIN OFF II

徳川四天王にまで 出世した「井伊の赤鬼」 井伊直政

直虎から受け継いだ井伊家再興への願いを胸に、圧倒的な豪腕で戦国の世を駆け上がる直政。徳川四天王の一人と呼ばれるまでに出世したその足跡をたどる。



朱漆塗燻韋威縫延履取
二枚扇具足
彦根城博物館所蔵
画像提供:彦根城博物館/
DNPartcom

SPIN OFF II

直虎と南溪和尚の画策で、徳川家康の小姓となった虎松。家康は自らの幼名竹千代に準え、虎松の名を「万千代」と改めさせる。そして、井伊谷に領地を持つことも許した。家康に味方したことで殺された直親の子と知ったからだと言われている。浜松城で家康に仕えるようになった万千代は、数々の功績を打ち立てる。天正10年(1582)、天下統一を目前に織田信長が本能寺の変で自害。その混乱の中、「決死の伊賀越え」で家康の帰還のために奮闘する。そして同年、養母直虎の死を見届けた後に元服し、「井伊直政」と名乗る。武田氏滅亡後、家康の命により武田の旧臣を引き継いだ直政は、朱



家康・直政が参戦した
小牧長久手の戦い
出展:パブリックメイン美術館

色軍装で揃えた「井伊の赤鬼」を率いるようになる。天正12年(1584)小牧・長久手の戦いでは、諸大名から「井伊の赤鬼」として恐れられ、さらに、天正18年(1590)の小田原の陣では、唯一小田原城内に攻め込んだ武将としてその名を轟かせた。やがて、徳川四天王の一人と称されるまで出世した直政は、天正18年(1590)、徳川家康の関東移封において箕輪城(群馬県)の城主となり、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いでは、東軍の中心的存在として勝利に貢献。合戦後は、近江(滋賀県)佐和山18万石の城主となる。

しかし、慶長7年(1602)2月1日、合戦で負った鉄砲傷が癒えぬまま、直政は41歳でこの世を去った。

※徳川家康の側近として仕え、江戸幕府樹立に多大な貢献をした4武将。酒井忠次、本多忠勝、榊原康政、井伊直政。

つきやまどの 築山殿と信康の悲劇

家康
妻と息子を
同時に失う

永祿2年(1559)、松平信康は、徳川家康と築山殿(井伊直平の孫といわれている)の嫡男として生を受けた。信康は生まれてすぐ、今川氏の人質として駿府で過ごし、桶狭間の戦いで今川が討たれると、岡崎城に移される。永祿5年(1562)、家康が織田信長と清洲同盟を結び、永祿10年(1567)、9才となった信康は、信長の娘・徳姫と結婚する。元亀元年(1570)、家康が浜松城に移ると、信康は岡崎城代となり、将来を囑望される武將へと成長していく。しかし、天正7年(1579)、徳姫が父織田信長に送った12ヶ条の訴状※で信長は激高し、家康に築山殿と信康の処刑を命じる。熟慮の末、信長との同盟関係維持を優先することにした家康は、身を切る思いで、築山殿の殺害と信康の切腹を命じたのだ。同年、築山殿は徳川家臣によって佐鳴湖畔で殺害。信康は二俣城で自害する。

※12ヶ条の訴状には「築山殿が武田勝頼と内通している」といった内容が記されていたといわれています。



たちあらいのいけ 太刀洗の池

築山殿が家康の家臣に殺害された場所。当時この地にあった池で、刀に付いた血を洗ったといわれている。

浜松市中区富塚町328
(浜松医療センター駐車場内)
交/JR浜松駅より遠鉄バス②乗り場より
約14分、「浜松医療センター」バス下車



ふたまたじょう 二俣城

天竜川と二俣川に挟まれた山城。家康の嫡男信康が悲劇の切腹をとげた。現在は野面積みの石垣を残す天守台や大手門・堀跡などが残っている。

浜松市天竜区二俣町二俣
交/天竜浜名湖鉄道「二俣本町駅」から徒歩約10分